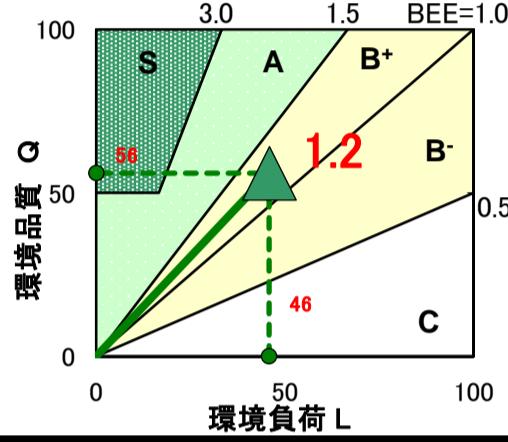
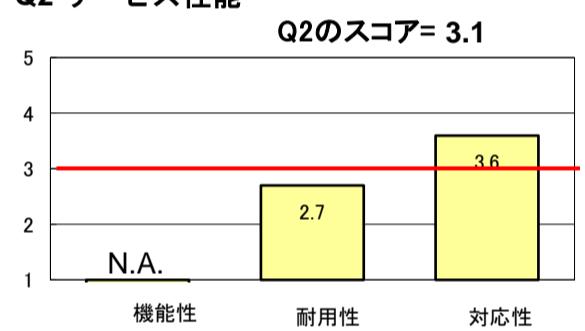
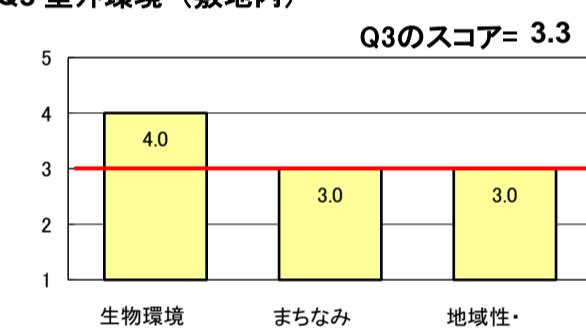
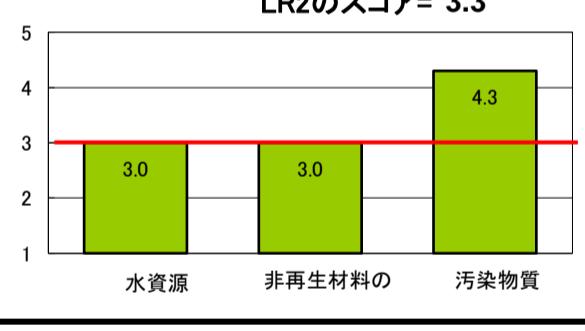
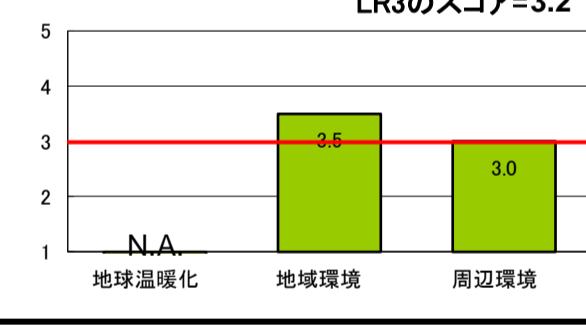


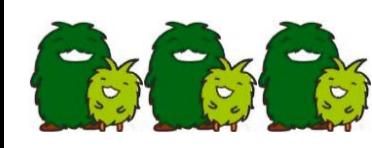
CASBEE あいち

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き ■使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	トヨタテクニカルセンター下山IV期西工区 施設整備工事 W0005	階数	地下0階地上6階
建設地	愛知県豊田市蕪木町北野田459番地 他279筆	構造	S造
用途地域	指定なし	平均居住人員	0人
気候区分	6地域	年間使用時間	2,085時間/年
建物用途	工場,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2023年11月 予定	評価の実施日	2022年10月21日
敷地面積	760,144 m ²	作成者	森 明生
建築面積	3,582 m ²	確認日	2022年10月24日
延床面積	21,542 m ²	確認者	森 明生

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)		2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)		2-3 大項目の評価(レーダーチャート)	
BEE = 1.2		30%: ☆☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆ 100%: ☆☆ 100%超: ☆	Q2 サービス性能	Q1 室内環境	
1.2		標準計算	Q3 室外環境 (敷地内)		
		①参照値 100% ②建築物の取組み #DIV/0! ③上記+②以外の #DIV/0! ④上記+ #DIV/0!	LR1 エネルギー	LR3 敷地外環境	
		(kg-CO ₂ /年・m ²)	LR2 資源・マテリアル		
		このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物（参照値）と比べたライフサイクルCO ₂ 排出量の目安で示したもの			

2-4 中項目の評価(バーチャート)			
Q 環境品質			
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境 (敷地内)	Q のスコア = 3.2
Q1のスコア = 0.0	Q2のスコア = 3.1	Q3のスコア = 3.3	
			
N.A. N.A. N.A. N.A.	2.7 3.6	4.0 3.0 3.0	
音環境 溫熱環境 光・視環境 空気質環境	機能性 耐用性 対応性	生物環境 まちなみ 地域性・	
LR 環境負荷低減			
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境	LR のスコア = 3.1
LR1のスコア = 3.0	LR2のスコア = 3.3	LR3のスコア = 3.2	
			
N.A. N.A. N.A.	3.0 3.0 4.3	3.5 3.0 3.0	
建物外皮の 自然エネ 設備システム 効率的	水資源 非再生材料の 汚染物質	地球温暖化 地域環境 周辺環境	

3 重点項目			
①地球温暖化への配慮	③敷地内の緑化	4.0	
N. A.		外構緑化指數(外構緑化面積/外構面積)	
		72.8 %	
		建物緑化指數(建物緑化面積/建築面積)	
		0.0 %	
②資源の有効活用	④地域材の活用	1.0	
		<外装材に使用した地域性のある材料>	
3.0		なし	
		<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材>	
		なし	

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
②資源の有効活用
③敷地内の緑化
④地域材の活用

中高木の樹冠の水平投影面積+低木・地被等の植栽面積 × 100
外構緑化指數 = 敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた

屋上緑化面積+壁面緑化面積 × 100
建物緑化指數 = 建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)



スコアシート 実施設計段階		独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体	
配慮項目				評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	
Q 建築物の環境品質									
Q1 室内環境									
1 音環境					-	-			
1.1 室内騒音レベル				3.0	-	-			
1.2 遮音				-	-	-			
1 開口部遮音性能				-	-	-			
2 界壁遮音性能				-	-	-	3.0	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	-	-	3.0	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-	-	3.0	-	
1.3 吸音				-	-	-	3.0	-	
2 溫熱環境				-	-	-			
2.1 室温制御				-	-	-			
1 室温				3.0	-	-	3.0	-	
2 外皮性能				3.0	-	-	3.0	-	
3 ゾーン別制御性				3.0	-	-	-	-	
2.2 湿度制御				3.0	-	-	3.0	-	
2.3 空調方式				3.0	-	-	3.0	-	
3 光・視環境				-	-	-			
3.1 昼光利用				-	-	-			
1 昼光率				3.0	-	-	3.0	-	
2 方位別開口				-	-	-			
3 昼光利用設備				3.0	-	-	3.0	-	
3.2 グレア対策				-	-	-			
1 昼光制御				5.0	-	-	3.0	-	
3.3 照度				3.0	-	-	3.0	-	
3.4 照明制御				3.0	-	-	3.0	-	
4 空気質環境				-	-	-			
4.1 発生源対策				-	-	-			
1 化学汚染物質				3.0	-	-	3.0	-	
4.2 換気				-	-	-			
1 換気量				3.0	-	-	3.0	-	
2 自然換気性能				3.0	-	-	3.0	-	
3 取り入れ外気への配慮				3.0	-	-	3.0	-	
4.3 運用管理				-	-	-			
1 CO ₂ の監視				3.0	-	-			
2 喫煙の制御				3.0	-	-			
Q2 サービス性能				-	0.43	-	-	3.1	
1 機能性				-	-	-	-	-	
1.1 機能性・使いやすさ				-	-	-			
1 広さ・収納性				3.0	-	-	3.0	-	
2 高度情報通信設備対応				3.0	-	-	3.0	-	
3 バリアフリー計画	独自			3.0	-	-			
1.2 心理性・快適性				-	-	-			
1 広さ感・景観 (天井高)				3.0	-	-	3.0	-	
2 リフレッシュスペース				3.0	-	-	-	-	
3 内装計画				3.0	-	-			
1.3 維持管理				-	-	-			
1 維持管理に配慮した設計				3.0	-	-			
2 維持管理用機能の確保				3.0	-	-			
2 耐用性・信頼性				0.5	2.7	0.52	-	-	2.7
2.1 耐震・免震・制震・制振				0.4	3.0	0.48	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能				3.0	3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		②		0.3	2.1	0.33	-	-	
1 車体材料の耐用年数		②		-	3.0	0.42	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		②		-	1.0	0.42	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		②		-	3.0	0.17	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		②		-	-	-	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		②		-	-	-	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		②		-	-	-	-	-	
2.4 信頼性				0.1	3.0	0.19	-	-	
1 空調・換気設備				3.0	-	-	-	-	
2 給排水・衛生設備				3.0	-	-	-	-	
3 電気設備				3.0	3.0	1.00	-	-	
4 機械・配管支持方法				3.0	-	-	-	-	
5 通信・情報設備				3.0	-	-	-	-	

3 対応性・更新性	②	耐力壁量を抑え、壁長さ比率0.085<1.0を確保 構造部材、仕上材を痛めることなく電気配線の更新・修繕ができる。 仕上材を痛めることなく通信配線の更新・修繕ができる。	0.4	3.6	0.48	-	-	-	3.6
			0.3	2.6	0.31	-	-	-	
			3.0	1.0	0.60	-	-	-	
			3.0	5.0	0.40	-	-	-	
			3.0	3.0	0.31	-	-	-	
			0.3	5.0	0.38	-	-	-	
			3.0	-	-	-	-	-	
			3.0	5.0	0.50	-	-	-	
			3.0	5.0	0.50	-	-	-	
			3.0	-	-	-	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.57	-	-	3.3
1 生物環境の保全と創出	独自③	生物環境に関して調査を行い保存、復元計画を実施	-	4.0	0.30	-	-	-	4.0
2 まちなみ・景観への配慮	独自④		-	3.0	0.40	-	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			0.3	3.0	0.30	-	-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	独自④		-	2.0	0.50	-	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上		冷却塔や室外機を設置しない。高温排熱の放出部を設置しない。	-	4.0	0.50	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	-	3.1
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	-	3.0
1 建物外皮の熱負荷抑制			3.0	-	-	-	-	-	-
2 自然エネルギー利用			3.0	-	-	-	-	-	-
3 設備システムの高効率化		BEI=	3.0	-	-	-	-	-	-
4 効率的運用			1.0	3.0	1.00	-	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			1.0	3.0	1.00	-	-	-	
4.1 モニタリング			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
4.2 運用管理体制			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	-	-	
4.1 モニタリング			-	3.0	-	-	-	-	
4.2 運用管理体制			-	3.0	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	-	0.30	-	-	-	3.3
1 水資源保護			0.1	3.0	0.15	-	-	-	3.0
1.1 節水			3.0	-	-	-	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			1.0	3.0	1.00	-	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	3.0	1.00	-	-	-	
2 雜排水等利用システム導入の有無			3.0	-	-	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			0.6	3.0	0.63	-	-	-	3.0
2.1 材料使用量の削減			-	2.0	0.07	-	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			-	3.0	0.25	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			-	3.0	0.21	-	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			3.0	1.0	0.21	-	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	-	-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	独自	露出配管とし設備・仕上げを分離している	3.0	5.0	0.25	-	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			0.2	4.3	0.22	-	-	-	4.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	3.0	0.32	-	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避	②		0.6	5.0	0.68	-	-	-	
1 消火剤			-	-	-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)			-	5.0	1.00	-	-	-	
3 冷媒			3.0	-	-	-	-	-	
LR3 敷地外環境			-	-	0.30	-	-	-	3.2
1 地球温暖化への配慮	①	#DIV/0!	-	-	-	-	-	-	-
2 地域環境への配慮			0.6	3.5	0.50	-	-	-	3.5
2.1 大気汚染防止			-	5.0	0.25	-	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			-	3.0	0.50	-	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			0.2	3.0	0.25	-	-	-	
1 雨水排水負荷低減	独自		-	3.0	0.33	-	-	-	
2 汚水処理負荷抑制			-	-	-	-	-	-	
3 交通負荷抑制	独自		-	5.0	0.33	-	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制			-	1.0	0.33	-	-	-	
3 周辺環境への配慮			0.5	3.0	0.50	-	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1 騒音	独自		-	3.0	1.00	-	-	-	
2 振動	独自		-	-	-	-	-	-	
3 悪臭			-	-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1 風害の抑制			-	3.0	0.70	-	-	-	
2 砂塵の抑制			-	3.0	-	-	-	-	
3 日照阻害の抑制			-	3.0	0.30	-	-	-	
3.3 光害の抑制			0.2	3.0	0.20	-	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			-	3.0	0.70	-	-	-	
2 昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			-	3.0	0.30	-	-	-	

重点項目スコアシート

トヨタテクニカルセンタ－下山IV期西工区 施設整備工事 W0005

実施設計段階

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				N. A
LR3-1	地球温暖化への配慮	0.0	0.00	
② 資源の有効活用				3.0
Q2-2	耐震性・信頼性	2.7	0.22	
Q2-3	対応性・更新性	3.6	0.21	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.0	0.19	
③ 敷地内の緑化				4.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	4.0	0.17	外構緑化:72.8%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化
重点項目スコア=各配慮項目の評価点②資源の有効活用 $(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}$
重点項目スコア= 重みの総和④地域材の活用
重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■建物名称

トヨタテクニカルセンター下山IV期西工区 施設整備工事 W0005

計画上の配慮事項	
総合	認定駐車場であるため、開放性の高い建物となっている。
Q1 室内環境	対象外。
Q2 サービス性能	建築基準法で定められた耐震性を有している。
Q3 室外環境(敷地内)	防犯に努めるため、防犯カメラの設置を予定している。
LR1 エネルギー	自然通風、自然換気としている。
LR2 資源・マテリアル	汚染物質を含まない材料の使用に努めた。
LR3 敷地外環境	適正な駐車スペースを確保している。
その他	特になし